

**FM815 Radio Sweet**  
(FMラジオ・81.5MHzでON AIR!)

蒲生地区まちづくり協議会 情報番組

**Happy Gamo**

1月9日(土) 放送予定  
まち協フォーラム

毎月第2土曜日

午前 11:00~11:30

■蒲生地区の人口

(令和2年12月1日現在)

人口: 14,487人 (-23)

男性: 7,166人 (-14)

女性: 7,321人 (-9)

世帯数: 5,318 (-9)

※( )内は前月比

新型コロナウイルスと共に暮らす  
~正しく恐れよう~

インフルエンザが流行する季節になってきました。今年は、新型コロナウイルス対策として、マスクの着用や手洗い、消毒の徹底のおかげで例年よりは、現段階で感染者が少ないといわれています。しかしながら、これから寒くなると、インフルエンザが流行し、そして新型コロナウイルス感染症と同時流行の危険があります。どちらも感染症ですが、症状や潜伏期間などに違いがあります。今回は、それらの違いをご紹介します。



	新型コロナ	インフルエンザ
症状の有無	発熱、味覚障害・嗅覚障害を伴うことがある	ワクチン接種の有無などにより程度の差があるものしばし高熱を呈する
潜伏期間	1~14日 (平均5.6日)	1~2日
無症状感染	数%~60% 無症状患者でもウイルス量多く感染力が強い	10% 無症状患者ではウイルス量は少ない
ウイルス排出期間	感染力があるウイルス排出期間は10日以内	5~10日 (多くは5~6日)
ウイルス排出ピーク	発病1日前	発症後2、3日後
重症度	重症になり得る	多くは軽症~中等症
致死率	3~4%	0.1%以下
ワクチン	開発中で現時点では有効なワクチンは存在しない	使用可能だが季節ごとに有効性は異なる
ARDS (急性呼吸窮迫症候群) の合併	しばしばみられる	少ない

聖地で初の  
がり版シンポジウム開催

11月22日、あかね文化ホールにおいて、がり版文化伝承シンポジウム「20世紀の日本社会を支えたがり版~過去からミライへ~」を蒲生地区まちづくり協議会、(一社)がもう夢工房、新がり版ネットワークが実行委員会を組織して開催しました。県内外から150名を超える参加がありました。向井実行委員長の挨拶の後、小椋市長からの祝辞をいただきました。

基調講演では、東京経済大学名誉教授・田村紀雄氏から、20世紀の国内外の民衆のコミュニケーションツールとして、がり版の役割が大きいと語られました。その後、がり版画家・助田篤郎氏の動画、全国のがり版関係者や団体の紹介、山形謄写印刷資料館長・後藤卓也さん、蒲生地区、新がり版ネットワーク、版画家・神崎智子さん(東京)、がり版作家・水口菜津子さん(京都)、がり版研究会代表・小松良子さん(福岡)の各活動を動画やオンラインを取り入れ報告をいただきました。

最後に、岡田文伸さん(新がり版ネットワーク副会長)から、「がり版文化伝承未来への提言」で締めくくられました。絶滅種と言われたがり版が今も生き続けており、未来への必要性や可能性があることを確かめ合えたシンポジウムでありました。



【がり版文化伝承シンポジウム実行委員会】

“がまチョコ”に皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい。

Eメール: gamomachikyo@e-omi.ne.jp

FAX: 0748-55-3030



【HPのQRコードです】

蒲生まち協会員は、蒲生地区に住んでいる一人ひとりが会員です。

広報がもう 「このまちで、心豊かに住みたい」と 思えるまちづくり

**がまチョコ**



蒲生地区まちづくり協議会 チョコットニュース <https://www.gamoyume.org>

発行者: 東近江市 蒲生地区まちづくり協議会・広報企画委員会 住所: 東近江市市子川原町461-1 蒲生コミュニティセンター内 TEL/FAX: 0748-55-3030

スクールステイ『あかね防災キャンプ2020』  
で思い出づくり!



防災講座に聞き入る  
自分の家は大丈夫かな?



消火器も使えます!



新聞紙で  
スリッパが出来ました!



懐中電灯とペットボトルで  
ほんわりとした優しい光が!

蒲生地区3小学校で、1泊2日の「あかね防災キャンプ2020」を開催しました。コロナ禍で修学旅行や通学合宿などの宿泊体験がなくなった今年度、宿泊を通じて子どもたちの協調性、絆を深める活動として、まちづくり協議会、地域教育協議会が、学校に呼びかけ、賛同していただき6年生を対象に実現しました。

蒲生北小(11月13、14日:50名)、蒲生西小(11月20、21日:74名)、蒲生東小(11月27、28日:17名)で、コロナ感染予防や寒さ対策を万全に行い、無事に終えることが出来ました。

「防災講座」では、市役所防災危機管理課よりこれまでの災害事例や、これから予測される災害への備え等を学びました。

「防災グッズ、避難所設営」では、新聞紙でスリッパ、ペットボトルでランタンを作り、宿泊場所となる避難所はダンボールを使って、みんなが協力して作りました。「簡易担架、車椅子」では、毛布を使う簡易担架、車椅子の乗り方、介助の仕方など貴重な体験もしました。日野消防署の協力で、煙体験、消火器の使い方、消防車のことも知りました。

食事は、非常食のアルファ化米(ドライカレー、五目ごはん)です。“ドライカレーおいしい・・・”の音が聞こえていました。

子どもたちには“いい思い出”だけで終わることなく、2日間で学んだ「防災」の知識を今後に生かし、いざという時、周りの人の助けになる存在であってほしいと願います。

開催にあたり、子どもたちを送り出して下さった保護者の皆様、準備やお手伝いの先生、行政、滋賀県防災支援赤十字奉仕団、日野消防署、社会福祉協議会、看護師、保健師等多くの協力、又ダンボールや毛布、非常食の提供をいただきありがとうございました。



初めて食べる防災食  
お腹いっぱい!



毛布が担架になります  
掛け声かけてイチ・ニ・サン!



介助は声をかけながら!



ダンボールをテープ止め  
少し寒いけどグッスリ眠れた!

【あかね防災キャンプ2020 実行委員会】



## にぎわう「コガモ市」

がもう夢工房は、コガモ市を11月8日に開催しました。当日は好天に恵まれ、200名を超える大勢のお客様にご来場いただきました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大により、開催を危ぶむ声もありましたが、入場時の手指消毒、検温、受付簿への記入等、感染防止対策をしっかり講じた上で開催しました。

3台の軽トラの荷台には地域で栽培された数々の野菜、果物、野菜苗、花苗等が所狭しと並びました。また、加工品も多く、定番の柿の葉寿司、滋賀蒲生町農協さんの佐久良川味噌、出荷者さんの手作りの品等々、市を盛り上げました。

さらに、イベントではすっかり定番となった元気ぱっぱ（蒲生産五平餅）。焼きそば、焼き芋も飛び様に売れ、早々に完売となりました。

ご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。引き続き、毎週日曜日には野菜市（マルシェ）を開催中です。ご来店をお待ちしております。

【(一社)がもう夢工房】



## 親子の栄養講座

### ～元気は食事から～

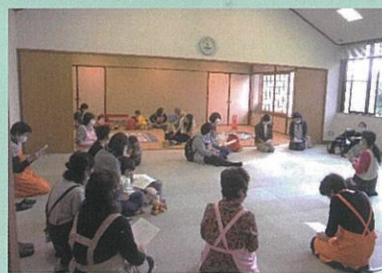
11月20日(金)“せせらぎ”にて、離乳食の時期から幼児食の時期までの保護者を対象に栄養講座を開催しました。

市保健師さんによる骨密度測定や河本栄養士さんから、「好き嫌いについて」お話しをしていただきました。

発達段階にある赤ちゃんや子どもは、食べ物(好き嫌い)が固まっています。楽しく食べられる環境や、雰囲気を作ってあげることで、苦手な食べ物が減り、「おいしい!」と感じて、色々な物が食べられるようになりますと「言葉のかけ方に注意しましょう」と教えていただきました。

また、今日のおやつとして、さつまいもパンの作り方や個別に栄養相談もしていただきました。

後半には、健康推進員さんから、減塩についてお話しがあり、野菜を食べる工夫や、野菜を一日350g以上食べましょう!!と野菜たっぷりレシピ集の啓発がありました。



【ふれあい交流部会】

## 「あかねふれ愛のつどい」 対面とリモートで開催

11月28日に湖北じんけんネットワーク代表の田邊九二彦様に「新型コロナウイルス感染症と人権」と題した講演と人権のまちづくり協議会、蒲生赤十字奉仕団、あかね福祉の会が順次活動報告を行いました。また、感染対策からあかね文化ホールには人数制限をして122人の会場参加とご自宅などからリモートで多くの方にもご参加いただきました。

今年は、コロナ感染が広がるなか、陽性者や医療従事者、さらにはエッセンシャルワーカーの方々までいわれのない誹謗中傷や差別事象が散見するようになりました。そのため、人権のまちづくり協議会とあかね福祉の会は、人権の広報啓発紙「和と輪」を利用して、自治会や地区推進員や福祉委員の皆さまや蒲生赤十字奉仕団の皆さまに地域のあらゆるところで「道端啓発」をお願いしてきました。そのフォローアップ事業として「あかねふれ愛のつどい」の開催でした。

私たちは、社会不安から差別が起こるや誰かを排除する心の内面を学びました。

また、蒲生地区では、ボランティアの意識も高く地域の中で相互扶助の文化が根付いていることを再確認することができました。



【あかねふれ愛のつどい実行委員会】

## 蒲生の未来を提案しよう! 19グループが発表

11月17日に、蒲生西小学校6年生による「蒲生の未来を提案しよう」の発表会に、まちづくり協議会から7名が参加しました。

今年は、「動物の道をつくり、ふれあえる場所がある町」「ごみを減らす取り組み」「ペットと避難所に行くための取り組み」「自然を使って蒲生を有名にしたい」「蒲生を人気にするために(人魚伝説)」「魅力ある蒲生にするために蒲生の名物を作ろう」「ゲームを通じて地域交流を深める」「蒲生のいいところを広めよう・ガリ版・あかね祭り・近江鉄道」「蒲生の人魚伝説を広めよう」「ヤギプロジェクト」「たんぼアート」「森の宝物を探そう」「空中散歩」「地産地消しながら地域の人たちとの交流が多い町」「清掃活動の大会化」「ゆるキャラを通じて蒲生のことを知ってもらおう」「特産品を生かして人気になり人との交流を深める町」「ガリ版で変える蒲生の未来」「地産地消ができる町」のテーマで、自分たちが住む蒲生の自然、歴史、文化、特産品などよく勉強し、まとめてくれたと感心しました。

発表も堂々と、パワーポイントを上手に使い、プレゼンテーションもわかりやすく聞かせてもらいました。本当に素晴らしい発表で、蒲生地区まちづくり協議会では、これらの提案を実現すべき更なる活動が必要と感じました。



【広報企画委員会】

夢ある若者を  
応援!

## 朝桜中学校同窓会

朝桜中学校同窓会は、現在12,574名の会員がいます。15歳から89歳の会員は相互にいろいろな形で親睦とそれぞれが母校・後輩への後援をおこなっていただいています。

本部では、名簿の管理や50周年記念事業や記念誌の発行などのイベントを行ってきました。

また、年に一度ですが輝く仲間達の紹介や新入会員の紹介した会報も発行しています。

最近、「二十歳の集い・謝恩会」をまちづくり協議会とともに後援をしています。今年はコロナ禍で開催されるかどうかわかりませんが、夢ある若者を応援していきたいと思っています。

今後は、「ホームカミングデー」のような地域の方々や卒業生とその家族、教職員OBなどが定期的に楽しめるイベントを開催したいものです。



## 蒲生の文化財余話 V 石灯笼 (鎌倉時代～明治時代)

石灯笼は寺院や神社で普通に見られる石造物です。元々仏前に供える灯明台として造られ、中国から仏教の伝来とともに伝わり、仏前に1基を据え献灯していましたが、平安時代には神社にも用いられ、室町時代に茶の湯と共に庭園にも用いられる様になると形状も多様化し、堂前に2基用いられるようになったといわれています。

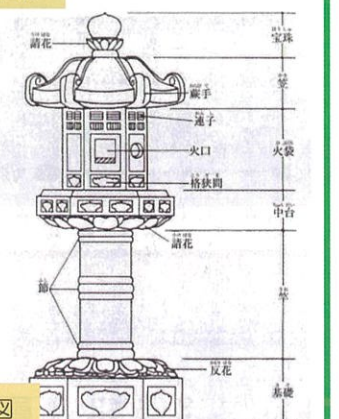
石灯笼の構造は地表から基礎・竿(さお)・中台・火袋・笠・宝珠からなり火袋の形から四角・六角・八角形があり、基礎、中台、笠もこれに倣いますが中台には丸もあります。竿は通常丸ですが四角や六角もあり、竿の上部・中央・下部に節と呼ばれる帯状の突起があり、鎌倉時代から連珠文様という半円の数珠を並べた様式が現れ江戸時代には無くなります。

蒲生地区内の寺院や神社にも必ずありますが、蒲生岡本町高木神社の社殿前に向かって右側の灯笼は正和4年(1315)の刻銘があり国重要文化財です。また、平林町法森寺の石灯笼は石塔寺から和田神社(平林町)と移設された伝承があり、中台が平面円形で側面を輪郭で六区に区切り中台上部に火袋受け座を彫り出し、火袋壁面には文保2年(1318)の刻銘や錫杖を持つ地藏菩薩坐像が彫られ市指定文化財です。なお、前記2基とも竿の節上部・中央・下部は連珠文様です。



高木神社

法森寺



石灯笼図

連載・万葉講座

がもうの話し!